

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075500688
法人名	有限会社 栄野会
事業所名	グループホーム かなえ
所在地	〒823-0004 福岡県宮若市磯光 1713-45 (電話) 0949-34-1157 fax 34-1158

評価機関名	特定非営利活動法人 ヘルスアンドライツサポート うりずん
所在地	直方市知古1丁目6番地48号
訪問調査日	平成 21 年 8 月 30 日
評価確定日	平成21年9月24日

【情報提供項目より】(平成 21年 8 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 1 日		
ユニット数	1	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 9 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 8 人	

(2) 建物概要

建物構造	平屋木造	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	15,500 円	水道光熱費
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金占否)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
1日当たり 1,100 円				

(4) 利用者の概要(8 月 1 日現在)

登録人数	8 名	男性	4 名	女性	4 名
要介護1	3	要介護2	3		
要介護3	1	要介護4	1		
要介護5	要支援2				
年齢	平均 85.6 歳	最低 78 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安倍病院 有吉病院 武田歯科医院 千々和耳鼻咽喉科医院 アイ歯科医院
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「かなえ」は設立4年目を迎え、近隣で開所していたデイサービスを昨今併設した1ユニットのホームである。木造平屋作りのホームは緑に囲まれ自然豊かな小高い丘の上にある。名称の鼎にちなみ、ホームの理念である「家庭的な温かい環境・なじみの関係作り・笑顔とゆとりのある暮らし」の具現化に取り組んでいる。デイサービスの利用者と一緒に陶芸・そうめん流し・大正琴に参加したり、大声で歌うカラオケで楽しみや気晴らしが出来る。管理者は職員が働き続けられる労働環境の整備が入居者の介護に反映すると、研修参加や資格取得の支援や、保育室を整備し子育て中の職員の就労を支援している。入居者も職員の子育てについて孫のようにアドバイスするなど、大家族のような雰囲気である。運営者は地域同業者協議会「GHみやわか」の発足や運営に積極的に関わり、毎月の勉強会・研修会に参加し、同業者が一体となったサービスの向上に取り組んでいる。また、福岡県介護保険広域連合と連携し、包括支援センターが中心となった徘徊ネットワークに参加するなど、今後、地域密着型サービスとしての地域貢献も期待できる

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価に沿って改善計画シートを作成し、運営規程・重要事項説明書に地域密着型サービスの方針を明記したり、重要事項説明書に意見苦情相談窓口を明記している。終末期の指針を整備し、これからの課題として取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が外部評価の意義を理解し、改善シートを作成している。
重点項目③	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議実施要領を整備し、警察・消防・市担当者、地区自治会会長、併設のデイサービス職員、入居者・家族等が出席し、入居者の状況、ホームの取り組みや外部評価等について報告し、議事録が整備されている。無断外出時の対応に入居者の写真入り書面を整備し、警察との連携に取り組んでいる。家族からの意見質問には即対応しているが、出席者が揃わず定期的な開催が課題である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族訪問時に、ホールの壁に掲示している入居者の暮らしぶりや行事の写真などを見ながら説明したり、ホームの行事案内や活動報告・新人職員紹介や産休中の職員の出産報告等を記載した「かなえだより」を発行している。医療機関受診状況や健康状態はその都度連絡し、記録を整備している。預かり金は個別出納帳を整備し、家族の確認印がある。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会には未加入だが、近隣の住民とは菜園で収穫した野菜や花苗のやり取りをしたり、自治会長を通じて餅つきの案内をしている。参加できない住民には餅を配ったり散歩等で挨拶等を交わし、ホームまでの道路の埃防止に散水したりしている。また、校区の小学5・6年生との体験交流は学校行事に組み込まれ、入居者の楽しみになっている。毎年市の福祉祭りのイベントにも参加している。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規程・重要事項説明書に地域密着型サービスの方針を明記している。ホームの理念としてなじみの関係づくりや、笑顔とゆとりのある暮らし等の3項目を掲げ、玄関ホールに掲示している。	○	重要事項説明書を玄関の見易い位置に掲示願いたい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は毎月の会議の中で理念について話したり、職員は毎日出退勤時に掲示している理念を各自で読み、共有を図っている。理念の具現化を目指して介護計画を作成するよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には未加入だが、近隣の住民とは菜園で収穫した野菜や花苗のやり取りをしたり、自治会長を通じて餅つきの案内をしている。参加できない住民には餅を配ったり散歩等で挨拶等を交わし、ホームまでの道路の埃防止に散水したりしている。また、校区の小学5・6年生との体験交流は学校行事に組み込まれ、入居者の楽しみになっている。毎年市の福祉祭りのイベントにも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が外部評価の意義を理解し、改善シートを作成している。前回の外部評価に沿って改善計画シートを作成し、運営規程・重要事項説明書に地域密着型サービスの方針を明記したり、重要事項説明書に意見苦情相談窓口を明記している。終末期の指針を整備し、これからの課題として取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議実施要領を整備し、警察・消防・市担当者、地区自治会会長、併設のデイサービス職員、入居者・家族等が出席し、入居者の状況、ホームの取り組みや外部評価等について報告し、議事録が整備されている。無断外出時の対応に入居者の写真入り書面を整備し、警察との連携に取り組んでいる。家族からの意見質問には即対応しているが、出席者が揃わず定期的な開催が課題である。	○	2ヶ月毎の開催をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に地域包括支援センターや市担当者を訪問し、情報や意見の交換をしている。スプリンクラー設置に関するアドバイスを受たり、福岡県介護保険広域連合と連携し、地域包括支援センターが中心となった徘徊ネットワークに参加している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	GHみやわか主催の地域福祉権利擁護や成年後見制度の研修に参加した職員が、スタッフ会議で報告している。必要時説明できるように資料を整備しているが、活用に向けて入居者・家族に説明したことはない。	○	契約時に制度の活用に向けた説明や記録をお願いしたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族訪問時に、ホールの壁に掲示している入居者の暮らしぶりや行事の写真などを見ながら説明したり、ホームの行事案内や活動報告・新人職員紹介や産休中の職員の出産報告等を記載した「かなえだより」を発行している。医療機関受診状況や健康状態はその都度連絡し、記録を整備している。預かり金は個別出納帳を整備し、家族の確認印がある。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書等に行政機関や事業所の意見苦情窓口を明記し、意見・苦情箱を玄関に設置している。家族会はないが、家族の訪問も多く、夏祭り等の家族の参加では家族同士の交流もあっている。相談室があり、管理者は家族とのコミュニケーションを大切に話し合いの時間を確保するように支援している。運営推進会議では家族から、誕生会や行事の費用について、買い物付き添い等の意見があり、ホームの運営に活かされている。	○	重要事項説明書を入居者や家族等の見やすい場所に掲示していただきたい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者を最小限にするため、常勤者9名体制で子育て中の職員が働き続けられるように育児室の確保や、勤務体制を調整し支援しているので離職は少ない。この1年は職員の産休・出産続きで調整が厳しかったが、「スタッフOB会」が発足し、子ども連れの訪問で、入居者との関係も継続している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	採用条件に区別は無く、職員の紹介による採用が多く現在63歳の職員もいる。職員の就業規則が整備され雇用契約書を取り交わしている。職員の休憩室も確保され交代で休憩している。有給休暇・残業手当の給付、定期健康診断を実施している。昼食代の補填や、年3回ほどカラオケ、焼肉会などストレス解消の企画を実施している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	GHみやわか主催の高齢者虐待に関する研修会に参加し、ホームで伝達している。身体拘束防止や高齢者虐待防止マニュアルを整備し、契約書に利用者の権利10カ条を謳い身体拘束・虐待防止を明記している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任・職員の年間研修計画があり、外部研修参加の報告書を整備し、ケア会議で伝達講習している。管理者研修を職員6名受講し、資格を取得している。新人教育マニュアルを整備し、1ヶ月間で理念の由来から、実務手順まで指導している。スーパーバイザー的役割は、先輩職員の経験者が担っている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員はGHみやわかで開催されている定期的な勉強会・研修会・交流会に交替で参加し、研修内容をケア会議で報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の事前訪問や主治医との面談、入院先のサマリーなどで情報収集している。本人が安心して納得できるように体験入居1泊2日～2泊3日を実施し、管理者は入居者との相性は重要であると話している。初期対応なしでの入居になった場合は本人・家族・ケアマネジャーと話し合いを重ねて納得を得るように連携し、入居後も馴染まれるまで家族の訪問をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者から野菜の作り方や調理や味付け、お茶のお手前を教わり、人生の先輩から子育てのアドバイスや生活の知恵を学び、将棋を楽しんだりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の生活環境等の基本情報を把握し、東京センター方式で職歴・生活歴・趣味・できることやできないことをアセスメントし、週間計画を作成している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者が生きがいを持って生活できる様に、本人や家族の意向、主治医の意見などを取り入れた介護計画を作成し、家族に説明し、同意を得ている。支援記録を整備しているが、モニタリングの記録の整備がない。担当者会議録は整備されている。	○	モニタリング記録を整備し、担当者会議で活用することで職員の気付を促してはいかがでしょうか。また、モニタリングで課題が明らかになるとと思います。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は介護記録や支援経過記録を整備し、に3ヶ月毎に見直しているが、入居者に状況の変化があった場合は家族の意向を聞き取り、サービス担当者会議で早急に介護計画を見直している。見直した介護計画は、家族に説明し、同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	いきつけの理容院への同行や送迎、家族が同行できない協力医療機関や入居者が希望する医療機関の受診を柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回のかかりつけ医の訪問診療や医療連携の訪問看護の利用、入居者と家族が希望する医療機関や専門医の受診を支援している。医療機関受診の内容は介護記録に記入し、その都度家族に連絡や報告している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に関する指針を整備し、運営推進会議で報告し話し合っている。入居時緊急時の同意書は取り交わしている。	○	緊急時の同意書だけではなく、重度化した場合や終末期に関する指針に沿った確認書を整備し、入居時や状況に応じて入居者や家族の意向の確認をお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関する規程を整備し、玄関ホールに掲示している。プライバシーを尊重したケアマニュアルを事務所に掲示したり、トイレのドアに「トイレは声掛けて外で待つ」を掲示し、プライバシーを配慮したケアを実践している。プライバシー保護や人権の尊重・処遇に関する研修に参加し、スタッフ会議で話し合っている。	○	個人情報保護の規程と利用目的を明記した文書を家族に配布し、同意を得ていただきたい。また、子育て中の職員の子どもの出入りが多いので、守秘義務の徹底をお願いしたい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムや暮らし方を活かし、天候に合わせて畑仕事や収穫、夕方には門の戸締りなど役割を担ってもらっている。訪問時も、お部屋で昼食をとられる入居者に寄り添い職員と一緒に食事を支援していた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑に野菜を採りに行き、季節を感じながら下拵え・盛り付け等で利用者の力量に応じた関わりを支援している。おやつは手作りすることもある。職員も同じ食卓を囲み、見守り等で食べ易い様に支援している。職員の食事代は、事業所が負担している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日入浴できるが、今のところ夜間入浴の希望はない。5月は菖蒲湯、秋は柚子湯にしたり、入浴剤を利用し全国の湯治めぐり等で入浴を楽しめるように工夫している。入浴がおっくうになってきた入居者には、声掛けや誘導を工夫しながら週2～3回の入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の状況に応じて、食事の下拵え・盛り付け・花壇・畑作りや習字・将棋等を支援している。ディサービスの利用者と一緒に陶芸・そうめん流し・大正琴に参加したり、大声で歌うカラオケで楽しみや気晴らしが出来ている。また、宮若市公民館の踊りの会に日舞の踊りを見学したりしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事計画を作成している。カレンダーに外出日を記載し、楽しみにしている入居者もいる。家族にも協力をお願いして外出の機会を作ったり、別府に1日旅行に行きたいと試案を練っている。又、天候に合わせて、入居者の意向を聞きながらご近所に野菜のおすそわけや、庭や近隣の散歩、ドライブ・買物に同行している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の施錠はしない。裏山があるため、夜間はセキュリティを考慮して警備会社と契約している。玄関・勝手口・非常口には鈴をつけ、犬を裏庭で飼っている。また、併設デイサービスの職員や近隣の派出所や警察との連携もあり、隣接の住民にも協力をお願いしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害マニュアルや緊急連絡網を作成し、地震・水害を想定した避難訓練を実施している。水・乾物・新聞紙・日用品等を備蓄し、消火器を設置している。避難場所である小中学校の地図を見やすい位置に掲示しているが、ホームの横に広い駐車場を避難場所としている。運営推進会議メンバーの消防署員による定期的な訪問があり、近隣住民にも災害時協力を依頼している。救急蘇生法やAEDの取り扱いについて研修をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した1日1300～1500Kcalの献立を栄養士が作成している。毎日の食事や水分摂取量を記録している。入居者の好き嫌いや咀嚼・嚥下状態を把握し、口腔体操など取り入れている。毎月1回体重を測定しているが、過度増減はない。	○	水分摂取量の記載量が少ないので1000～1500mlの摂取をお願いしたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前の周りや庭先には季節の花や野菜が育てられ、玄関までスロープが設置されている。全館バリアフリー構造で、入居者が1日の大半を過ごす居間兼食堂は広々と明るく座り心地のよいソファと食卓が配置され、夫々お気に入りの場所で寛いでいる。オープンキッチンから、美味しそうな匂いが漂い家庭的である。居間から続くウッドデッキから、庭木やペットの犬が走り回っている様子が見え、時折り声をかける入居者もいる。天候や時間に応じて、光や明かりの調節をしている。ベッドマットごと洗浄するオープン洗浄で臭い・汚染を改善したり、窓を開放している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室入り口の扇に入居者の名前が書かれ、緊急時声掛けしたら扇を外し目印にしている。クローゼットや高さ調節可能なベッドが備え付けられ、寝具は業者が定期的に手入れや交換をしている。居室には本人持参の家具や椅子、馴染みの小物や家族の写真が飾られている。		